

『学年ビリのギャルが1年で偏差値を
40上げて慶應大学に現役合格した話』
坪田信貴／著 KADOKAWA

僕はこの小説を読んで「人間はその気さえあれば、なんでもできる」と思いました。

なぜなら、主人公のさやかは、最初は漢字や歴史の問題をしても前代未聞の変な解答で、僕も「これはアホすぎる」と思ったほどでした。しかし、そこからどんどん勉強していった、ついに慶應大学を受けるまでのレベルに達したからです。

『ロードロス』

ダレン・シャン／著 小学館

ごく一般的な家庭で育った主人公を、ある時“ロードロス”という悪魔が襲う。そのとき主人公は自身の魔法の力に目覚める。

この物語は、主人公が自分の運命と向き合いながら、出会ったものと力を合わせていろいろな経験をしていくSF小説です。ぜひ読んでみてください。

図書委員+有志です。 この本、面白かったので おすすめします。No.3

『植物図鑑』

有川浩／著 角川書店

「お嬢さん、よかったら俺を拾ってくれませんか」。マンションの玄関先に倒れていた男性が、見つけてくれた女性にこう言いました。ふたりは同居します。男性は草花についてとても詳しくて、一緒に取りに行くと花冠や料理を作ります。

ほのぼのとした恋愛小説で、キュンキュンするポイントがいっぱいあります。今年映画化されました。

『セーラー服と機関銃』

赤川次郎／著 角川書店

主人公の高校生の女の子が、祖父の遺言でヤクザの組長になるという、普通では考えられない話です。主人公は最初は嫌だったのに、組の人たちが優しくいい人なので、だんだん信じるようになっていきます。彼らも組長である主人公を守ってくれます。いろいろな事件が起きますが、信じることで仲間とみんな乗り越えていきます。この人間関係がすごいです。何回か映像化されていますが、最近の映画の主人公は橋本環奈です。